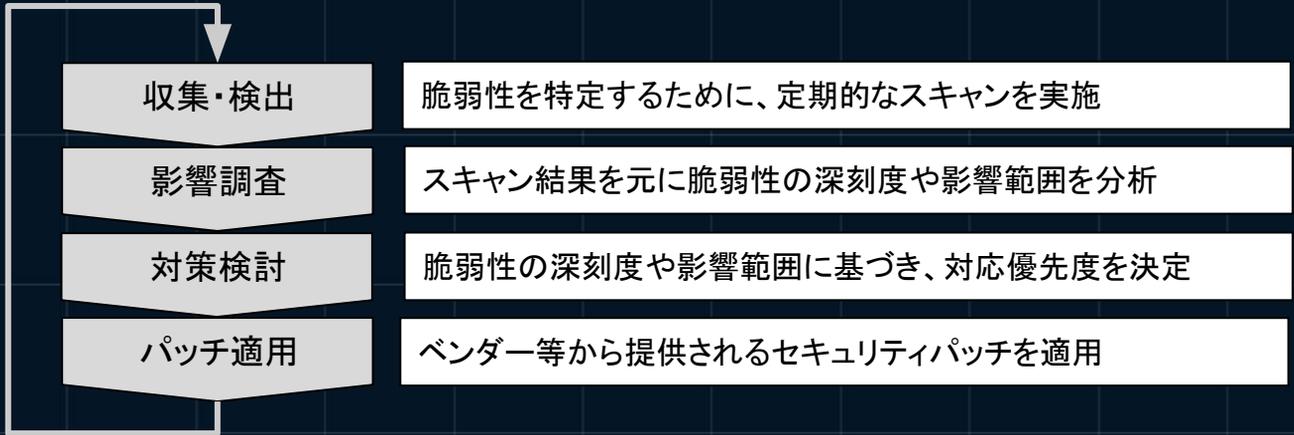


脆弱性管理とは？



システムやソフトウェアに存在する脆弱性を特定し、リスク評価と対策を継続的に実施することでセキュリティを向上させることです。

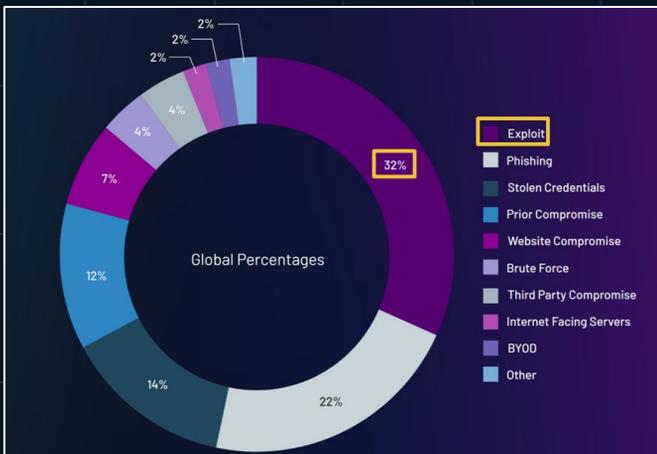


脆弱性管理の現状

日々、発生する脆弱性に対応できておらず、**継続的な脆弱性管理の実施が課題**

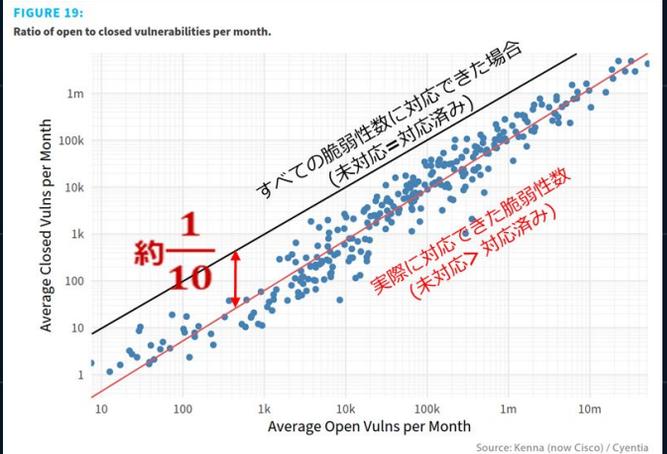
攻撃者が最初に使用する**攻撃経路の32%は既知の脆弱性の悪用**である。(※1)
米国の一般的な組織は**新規に検知された脆弱性の10%しかパッチを充てられない**。(※2)

攻撃者が最初に使用する攻撃経路(※1)



出展: Mandiant M-Trends 2023
By The Numbers Infographic

月毎の未対応/対応済みの脆弱性の分布 (数百の組織を調査)(※2)



出展: Cyentia Institute The Hidden Complexity of Vulnerability Remediation: Bridging the Gap between Data and Common Advice

脆弱性管理の運用が回らない要因

▼脆弱性の手動管理

- ・情報の収集・検出等に時間がかかる。
- ・最新情報の追跡が困難である。
- ・対応履歴が残らない。

▼作業の属人化

- ・対応フローが確立できていない。

▼脆弱性への対応判断の難しさ

- ・対応優先度付けに時間がかかる。

FutureVulsの紹介 - SSSVC搭載の脆弱性管理クラウド

- 脆弱性の自動検知・影響調査・対策検討・パッチ適用などの運用をトータルサポート
- 米国政府推奨のSSVCによる「脆弱性の優先度付け」の自動化に定評がある。



SSVCとは？

脆弱性対応方針の判断手法の1つ。

FutureVulsとSSVCの関係は、別紙「CVSSで疲弊していませんか？」をご参照ください。
脆弱性管理の課題に対して、FutureVulsを使用するメリットをより詳細にご説明しています。

▼実現すること

情報収集・豊富な判断材料

 自動で脆弱性情報を収集し、効率的な調査・対応判断が可能に

脆弱性の優先度付けの自動化

 運用負荷の高い判断業務を軽減
危険な脆弱性から対応可能に

1つ1つの脆弱性をチケット管理

 検出した脆弱性毎にチケットを自動起票
チケットで対応状況の追跡・管理が可能に

通知機能も充実

 毎日の脆弱性レポートをメール、Slack、Teamsで通知可能に

▼特徴

開発	脆弱性スキャナからWebシステムまで 自社開発(国内)なのでユーザー要望に柔軟に対応可能 ユーザーフィードバックやR&Dの成果を元に1 - 2ヶ月単位でリリース
UI/UX	ユーザーから大好評。直感的な操作が可能
技術力	弊社エンジニアが脆弱性スキャナ「Vuls」をOSSとして公開しており、IPAに脆弱性対策を効果的に行うツールとして紹介されている
サポート	弊社のエンジニアが直接サポート

サポート体制

導入前の脆弱性管理相談から導入後のユーザーサポートまで
FutureVulsのセキュリティスペシャリスト/エンジニアがサポートします。

